

第2回 電力需給検証小委員会

資料4

2013年度夏季の 電力需給見通しについて

甲第 60号証

甲第全45号証

1. 需給検証の考え方

1. 需給検証の考え方（①基本的な考え方）

<需要>

- 需要については、2010年夏並の猛暑を想定。これに節電の定着状況、直近の経済見通し等を反映。

<供給>

- 各電源について、供給力として確実に見込めるかどうかを十分精査しつつ、可能な限り供給力を積み上げ。各電力会社間の電力融通も加味。

<需給バランス>

- 各電力会社の需給バランスだけでなく、9社、東日本・中西日本といった広域的な視点で安定供給可能か、需給バランスを検証。



<需給対策>

- データや分析手法を明らかにすることにより、客観性・透明性を確保した需給検証を踏まえ、必要な場合は、政府として数値目標付の節電要請などの電力需給対策を決定。

1. 需給検証の考え方 (②需要面、供給面)

需要面

①2013年度夏季の需要想定

- 気温影響：2010年度夏季並の猛暑を想定。
- 経済影響：直近の経済見通しを反映。
- 節電影響：2012年度夏季からの節電継続率を反映。

②需給調整契約状況

- 計画調整契約の見込み。
- 随時調整契約の見込み。

P5~

P9

供給面

①火力発電

- 保安に留意しつつ、可能な場合には定期検査の繰り延べ等で供給力を確保。
- 長期停止火力や被災火力の再稼働の見通しを反映。
- 自家発購入、緊急設置電源の設置又は増出力を見込む。
- 夏季出力低下を考慮し、吸気冷却装置を導入して出力を確保。

P12~

②水力発電

- 渇水等を想定し、安定的に見込める出力を評価。
- 保安に留意しつつ、可能な場合には定期検査を繰り延べして供給力を確保。

P22~

③揚水発電

- 夜間の余剰電力、発電時間の長さ等により供給力を評価。

P24

④太陽光発電

- 天候によって左右されるため、安定的に見込める出力を評価。
※風力発電は天候の影響により出力がゼロとなることがあるため、供給力として計上しない。
※地熱は安定して発電できるため、供給力として計上。

P25~

⑤融通

- 需給が厳しい電力管内に対して、電力融通を実施。

P31

⑥供給予備率

- 瞬時的な需要変動や計画外の電源脱落等に対応するための予備率を確保。

P29

③2013年度夏季の需給調整契約

- 需給調整契約には計画調整契約と随時調整契約の2種類があるが、平日の昼間から夜間などに電気の使用を計画的に振り替える計画調整契約の契約見込みを、定着節電として電力需要想定に織り込む。
- 他方、随時調整契約については需給ひっ迫時のみに発動する需給調整契約のため、需給ひっ迫が生じない場合には需要想定に予め織り込まない。
- 2013年度夏季の現時点の見込みは、2012年度夏季の見通しと比べ、増加。

○2013年度夏季の需給調整契約予定

	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	合計
計画調整契約 電力	2万kW	22万kW	202万kW	45万kW	80万kW	4万kW	52万kW	19万kW	48万kW	474万kW
随時調整契約 電力	7万kW	21万kW	174万kW	71万kW	36万kW	20万kW	114万kW	21万kW	33万kW	496万kW

(参考)2012年度夏季の見通し

	北海道	東北	東京	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	合計
計画調整契約 電力	5万kW	22万kW	179万kW	50万kW	58万kW	3万kW	43万kW	21万kW	48万kW	429万kW
随時調整契約 電力	9万kW	18万kW	166万kW	70万kW	37万kW	20万kW	115万kW	23万kW	33万kW	491万kW

(参考)需給調整契約の概要

①計画調整契約

夏季・冬季のピーク期間中、平日の昼間から夜間や休日などに電気の使用を計画的に振り替える契約(契約時期:毎年度春先～)。調整電力及び調整時間の実績により、電気料金が割引される。

②随時調整契約

需給の逼迫時に、電力会社からの事前通告(即時、1～3時間前、前日)によって電力の使用を抑制する契約(契約時期:毎年度春先～)。「発動の有無に関わらず毎月割引」及び「発動時の実施割引」により、電気料金が割引られる。事前割引のないものも存在。